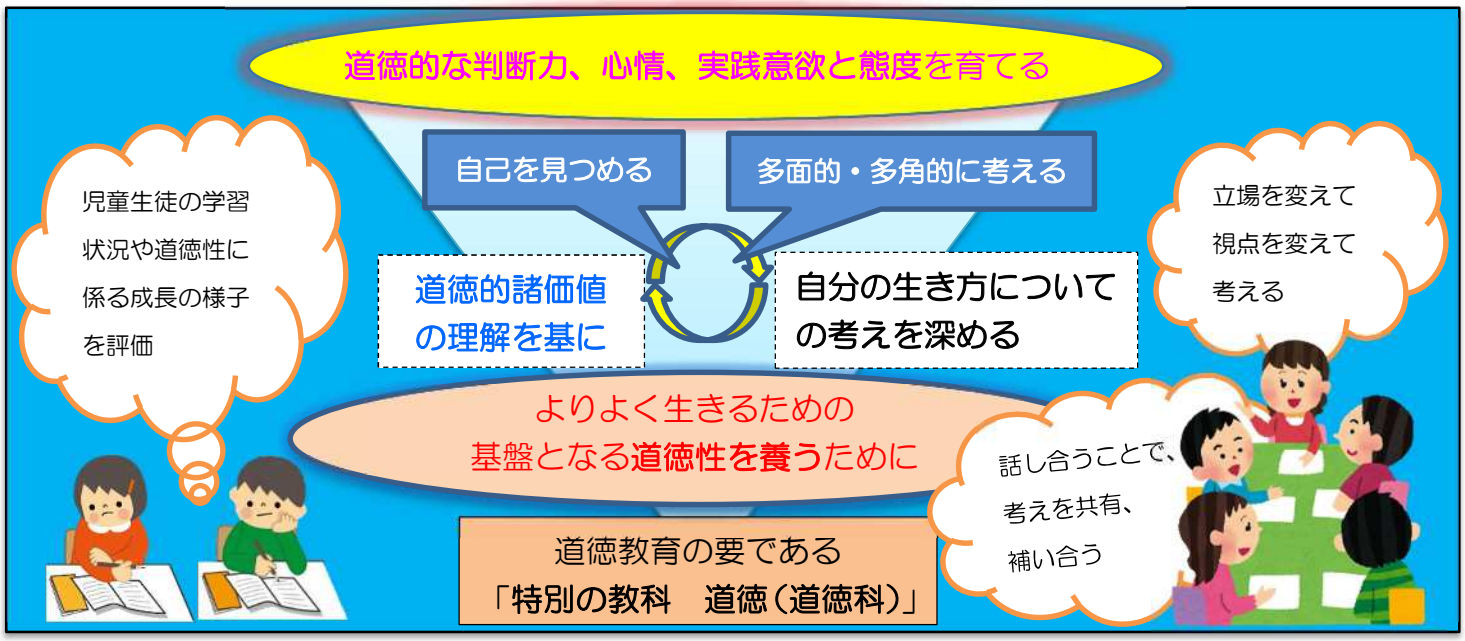
自立した人間として

他者と共によりよく生きる

「考え、議論する道徳」授業へ向けて

「特別の教科　道徳（道徳科）」の目標

よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ため、
道徳的諸価値についての理解を基に、
自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。　※（　）内は中学校



道徳的諸価値の理解って何？

価値理解…よりよく生きる上で道徳的価値は大切なことであると理解すること。
人間理解…道徳的価値は大切ではあるが実現は難しいことや人間の弱さなども理解すること。
他者理解…道徳的価値の実現には多様な感じ方・考え方があることを理解すること。

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

令和元年２月

佐賀県教育委員会

「考え、議論する道徳」の授業づくり

教師が児童生徒に何を考えさせたいのかを明確にもち、児童生徒の実態を把握することが大切です。

主題の設定

年間指導計画を基に、教師が児童生徒に何を考えさせたいのか、何に気付いてほしいのか、などをしっかりと考え主題を設定します。

主題を設定することで、授業のねらいや指導内容についての教師の捉え方が明確になります。

児童生徒の価値観の把握

児童生徒が、授業で考える道徳的価値について、その時点でどのような価値観をもっているのかをアンケートなどを使って把握します。これは、児童生徒の実態にあった学習指導の検討につながります。授業後に児童生徒の変容を見取る際にも役立てることができます。

教材の吟味

児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

- どのようにして道徳的価値の理解を深めるか。
- 道徳的価値の理解を深めるのにふさわしい場面はどこか。など

ワークシートの工夫

授業の終末では、ワークシートに感想などを書かせることがあります。

その際、単に授業の感想や振り返りを記述させて終わりとならないように、「**今日の授業を振り返って、『今』どう思う（考える）ようになったか。**」など、児童生徒が自分自身の感じ方や考え方の変化を自分の言葉で書けるように、問い方を工夫することも大切です。

次のような視点をあたえることで、授業を通して自分自身の変化に気付かせることもできるようになります。

- 授業のねらいとしていた道徳的価値について考えることができたか。新しい気付きはあったのか。
- 中心的な発問に対して、自分のこととして考えることができているか。
- 中心的な発問に関する話合いで、多面的・多角的に考えたり発言したりできているか。

このような問いをすることで、授業のねらいとしていることが、十分達成できたかを教師が確認できます。

「考え、議論する道徳」授業へ

中心的な発問は、授業の主題となっている道徳的価値について子どもたちが深く考え、追求していくような問いを指します。具体的には、
- **「○○という判断をしたけど、自分ならどうするか。」**
- **「主人公のしたことは、本当に良いことか。」のような発問になります。**

主題に迫る授業構想

まずは、主題に迫る中心的な発問を考えます。次にそれを生かすためにその前後の発問を考えます。

中心的な発問は、一問一答型の発問ではなく、児童生徒の多様な答え（感じ方や考え方）が導かれるような問いになります。

導入の工夫
- 主題に関わる問題意識をもたせます。
- 教材の内容に興味や関心をもたせます。

展開の工夫
- 道徳的価値に対する児童生徒一人一人の感じ方や考え方を交流させたり、自分との関わりで考えを深めさせたりする学習にしましょう。

終末の工夫
- 児童生徒一人一人が、自らの感じ方、考え方の変化や明日への課題などを実感でき確かめることができるようにしましょう。

発問の工夫

児童生徒に対して「**本当にそうなのか**」と問いかけることで、新たな感じ方や考え方を促すことができます。

「なぜ（どうして）～なのか」　根拠や理由について考える問い
「そもそも～とは何だろう」　根拠や理由について改めて考える問い

多様な指導方法の工夫

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習

※　多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているものではありません。

※　指導のねらいに即して、適切に取り入れることが大切です。

道徳的行為に関する体験的な学習

教材名
「くりのみ」
◆ねらい
うさぎの優しさにふれ、涙をこぼすきつねの思いを考えることを通して、相手の立場を思いやり、互いに助け合っていこうとする心情を養う。
◆対象学年　小学校　低学年
◆内容項目　B－（9）　友情、信頼

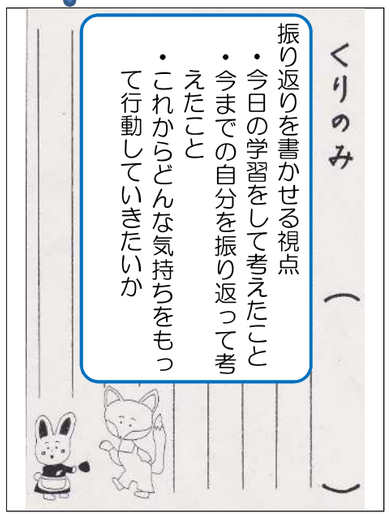
役割演技の流れ

① 二人組で役割演技を行う。
② 役割を交代する。
③ 代表役割演技を行う。
④ 演じた児童が、演じていたときに思ったことを発表する。
⑤ 観客（見ていた児童）が、感じたこと・考えたことを発表する。

代表役割演技の様子

A　これをどうぞ。
B　ありがとう。えーん、えーん。
A　どうして泣いちゃうの？
B　ぼく、嘘をついたの。
A　なんで？何を？
B　ぼく、嘘ついたから取ってくる。（どんぐりを取りに行く。）ほらいっぱいある。
A　どうして隠したの？
B　ぼくのものと思って・・・。
A　なんで私に言わなかったの？
B　ぼくは、隠したかったんだ。だから、ぼくの心は黒くなってる。
A　そんなこと思ってるの。許してあげようか。
B　うん。（礼をする）どんぐりは分けよう。
（どんぐりを分けるしぐさをする）

ワークシート



板書

指示・発問と指導上の工夫

導入

友達と仲良くできなかったことはありますか。それは、どんなときですか。（事前アンケート活用）

ちょっと前に友達に悪口を言ってしまった。ごめんなさいと思っている。

友達を押してしまったことがある。

展開

きつねは、どんな気持ちで、どんぐりの残りをそっと落ち葉で隠しておいたでしょう。

あとで食べようと思ったからじゃないかな。

ひとりじめして食べたいと思ったんだよ。

きつねは、どんな気持ちで、「なんにもなくてはらぺこです。」と嘘をついたのでしょう。

ばれたら、食べられてしまうかもしれないから。

自分が見つけたから、誰にもわたしたくないからだよ。

うさぎがくれたくりの実を見て、きつねが流した涙には、どんな思いがあったのでしょう。

きつねは嘘をついて隠したのに、うさぎはくれたから、ごめんなさいと思ったんだよ。

きつねもあげたらよかったと思ったんじゃないかな。

終末

この後、きつねさんとうさぎさんは、どんなお話をしたのでしょう。二人組で劇をしてみましょう。

代表役割演技の様子

友達と力を合わせ、仲良く何かをしてよかったと思うことはありませんか。（事前アンケート活用）

今日の学習をして、考えたことを書きましょう。（その後、「友達になるために」を歌う。）

板書の中の番号と対応しています。

①中心的な発問に対する考えを深めるために
【場面を捉える発問】
・きつねとうさぎの関係や状況を理解させることが、中心的な発問に対する考えを深めさせることにつながる。
②自分の事として捉え考えることができるように
【役割演技の活用】
・二人組で役割演技を行うことで、きつねとうさぎそれぞれの気持ちを実感させ、道徳的価値についての考えを深めさせる。
【効果的な役割演技】
・役割演技の第一声は、あらかじめ言葉を設定しておくとスムーズに進められる場合もある。
・登場人物の心情を十分理解している児童を代表役割演技の演者に選ぶ。
・役割演技そのものを目的とするのではなく、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深められるようにすることが重要である。

◆評価について
・友達に助けてもらうとうれしくなる気持ちに気付き、助け合うことの大切さを感じ取っているかどうかをワークシートに書かせる。その記述内容と役割演技などを通して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る。

家庭や地域社会との連携を生かした学習

教材名
「生まれてきてくれて
ありがとう」

◆ねらい
親の愛情と「いのち」の誕生の喜びについて考えることを通して、「いのち」の大切さを感じ、自己有用感を味わわせる。

◆対象学年　小学校　中学年

◆内容項目　D－（１８）　生命の尊さ

自己有用感を味わう

自分は誰からも認められていない、愛されていないなど、自己有用感が低い子どもたちが増えていることは悲しいことです。そこで、この授業では「いのち」の誕生の素晴らしさを感じ取るとともに、家族の愛情に気付かせることで、自己有用感を味わわせることをねらいとしています。

家庭との連携のポイント

★学級通信に資料を付ける
道徳で子どもたちが、どんな学習をしているのかを保護者に理解してもらえるように授業で使った資料を学級通信に掲載する。また、児童生徒の授業の振り返りや感想なども紹介する。

★家庭で保護者と話し合う
授業で考えたことを家庭でも、保護者と話し合う。学級通信などを活用して、家庭でも話題に。

★保護者からの感想
学級通信の中に、保護者からの意見や感想、家庭での子どもの成長の様子などを記入する欄を設ける。

★保護者からの手紙（授業例）
子どもたちに「自分の命がどれだけ大切にされてきたか」、「自分が生まれた時、どれだけ周りの人が喜んだか」を感じとらせるために、子どもたちには内緒で保護者に手紙の作成を依頼。授業のねらいに沿うように書いてもらうために、手紙の内容や例などを示し、保護者に案内を行う。

ワークシート

「生まれてきてくれて　ありがとう」

道徳ワークシート

年　組（　　）

★あなたが生まれた時、家族やまわりの人はどんな気持ちになったでしょう。

★友達の意見を聞いて、思ったことは

★今日の学習をふりかえって、これからの自分は

板書

①
「生まれてきてくれて
ありがとう」

８６㎜
不思議
小さい

○「お母さんの中に赤ちゃんがいるよ」
・うれしいな　・やった！
・妹ができるかも・・・
・お姉ちゃんになるんだ！

期待

十か月
・待ち遠しい。　・早く会いたいな
・お母さん大丈夫かな
・無事に生まれてくるかな

心配

○赤ちゃんが動いた
・うれしい　・びっくりした
・元気なんだな　・安心した
・すごいな、生きてるんだな

安心

○初めて赤ちゃんを見て
・うれしい　・かわいいな
・みんなに見てもらいたいな
・感動

赤ちゃんの写真

○「おうちの中は・・・」
・明るくなる
・笑顔が増える
・忙しくなるけど、
忙しいことが幸せ

②
生まれてきてくれてありがとう

指示・発問と指導上の工夫

導入

胎児の心音を聞かせたり、超音波の映像を見せたりして、命の神秘さや不思議さを感じさせる。

この音は、何の音だろう

とっても小さいな。

お母さんから、赤ちゃんができたことを聞いた時、私はどんな気持ちだったでしょう。

展開

妹ができるかも…。うれしいな。

やった。お姉ちゃんになれる。

赤ちゃんは、おなかの中にどれくらいの間いると思いますか。約十か月です。

長いな。早く会いたいな。

無事に生まれてきてくれるかな。

生まれてきた赤ちゃんを初めて見た時、どんな気持ちになったでしょう。

うれしい。かわいいな。

みんなにも見てもらいたいな。

赤ちゃんが生まれたことで、おうちの中は、どうなるでしょう。

明るくなる。笑顔になる。

忙しくなるけど、幸せ。

終末

あなたが生まれた時、家族やまわりの人はどんな気持ちになったでしょうか。

全員が発表を行い、友達の意見をメモする。その後、家族から手紙（内緒で準備）を読む。

今日の学習や手紙を読んで考えたことはありますか。これからの自分をワークシートに書きましょう。

※手紙等の作成をお願いする際には、児童生徒の家庭環境等にも配慮して計画を立てるようにしましょう。

①ねらいとする価値への意識付け
【導入で提示】
・胎児の心音や超音波映像を見せ、いのちの神秘さ不思議さを感じさせ「いのち」に関する学習をすることを伝える。
・主人公の女の子の気持ちを中心に問い、期待や心配、安心という気持ちをおさえる。

②中心的な発問に対する考えを深めるために
【話合い活動の工夫】
・個人で考えたことを一人ずつ発表させ、友達の意見をメモさせる。友達の意見を聞き、自分の考えを再考させる。
【家族の手紙】
・家族に書いてもらっていた手紙を一人一人に手渡し、生まれてきた時のこと、嬉しかったことなどを知ることで、自分の「いのち」が望まれて生まれてきたことに気づかせる。

◆評価について
・家族が自分の誕生をどのように感じていたのか知った後で、「今までの自分」を振り返り「これからの自分」を書かせ、その記述内容などを通して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る。

問題解決的な学習

教材名
「ブランコ乗りとピエロ」

◆ねらい
謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする態度を育てる。

◆対象学年　小学校　高学年

◆内容項目　Ｂ－（１１）　相互理解、寛容

問題解決的な学習の流れと発問

【問題の発見や道徳的価値の想起】

★　資料や生活の中から道徳的な問題を見つける。
「 ○○をあなたは、どう 考えますか？」

★　自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いをもつ。
「 ○○とは、なんだと 思いますか」

【問題状況の確認・問題解決に向けての話合い】

★　道徳的な問題について、自分の体験やその時の感じ方や考え方をもとに、グループなどで話し合う。
「 ここでは、何が問題になっていますか。」
「 なぜ、このようなことになってしまったのでしょうか。」

★　道徳的な問題場面に対するよりよい解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。
「 あなたなら、どう 行動しますか。」
「 よりよい解決方法には、どのようなものが考えられますか。」

【解決策の選択、道徳的価値の深化・課題発見】

★　話合いの中で大切にした道徳的価値について、考えを深める。
「 どうして、そう 考えましたか。」

★　解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意味や意義への理解を深める。
「 そのような解決策を選んだのは、なぜですか。どんなことを考えたからですか。」

★　振り返って、自分の課題を導き出す。
「 これからの自分はどうしたいですか。」

ワークシート

「 ブランコ乗りとピエロ」　道徳ワークシート
年　組（　　）

★サムのことをどう 思いますか。あなたなら、許せますか。それはなぜですか。

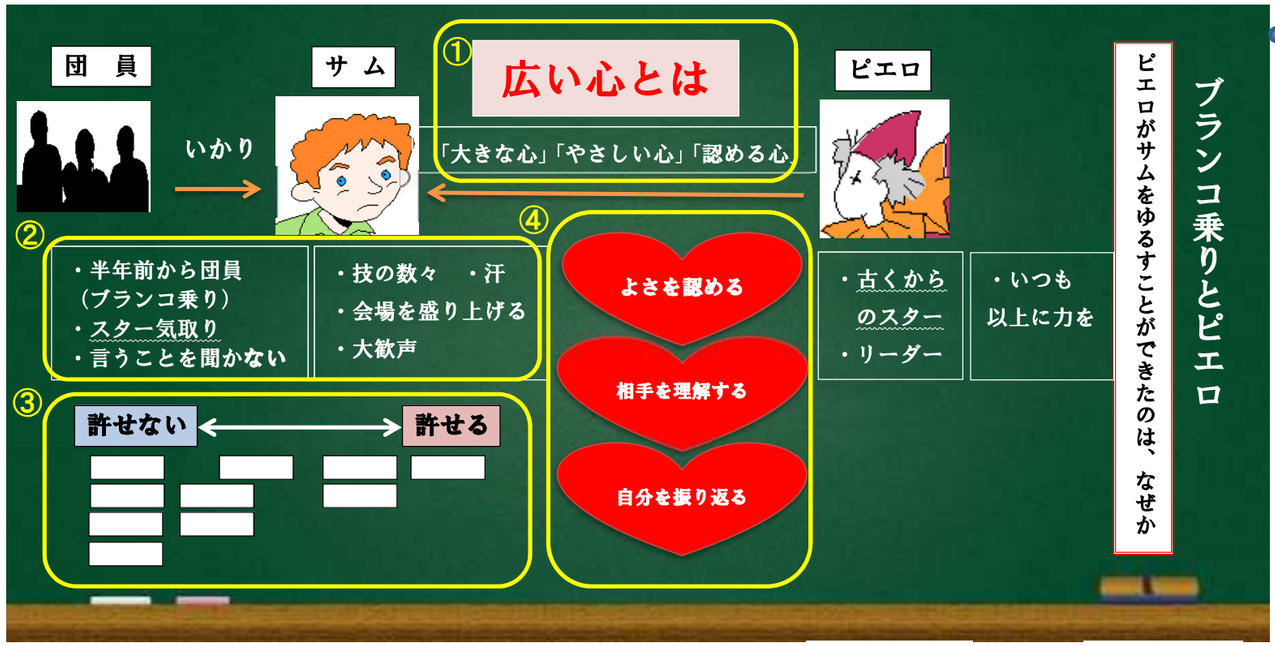
許せる　・　許せない

【 理由】

★ピエロがサムを許すことができたのは、なぜだと 思いますか。それはどんな心からですか。

★生活を振り 返って、「 広い心」について感想を書きましょう 。

板書



指示・発問と指導上の工夫

導入

「あの人は心が広い。」ということがありますが、「広い心」ってどんな心だと思いますか。

どんなことも「いい」って認める心かな。

何でも許せる「優しい心」かな。

展開

今日は、なぜ、ピエロが、サムをゆるすことができたのかについて、考えていきます。

まず、ピエロとサムの関係について確認しましょう。（関係図に書く）

サムのことをどう思いますか。あなただったら、許しますか。理由も考えてみましょう。

ぼくは、許さない。自分勝手すぎる。リーダーはピエロなのに。

私も許せない。目立ちたがりで、他の団員のことを考えてないところが・・。

私は、許してもいいかな。技に自信があるからサーカス団員としては必要。

ピエロがサムをゆるすことができたのはなぜだと思いますか。どんな心があったからですか。

グループで理由を出し合ってみましょう。

終末

自分の生活を振り返って、「広い心」について、あなたが思うことを書きましょう。

目立つことよりも、お客を喜ばせることが大切って思ったし、それは、サムもいっしょだって気付いたのかも。相手に寄り添い、理解する心もあった。

サムのおかげで自分もがんばれたって言ってる。もっとがんばらなくちゃって思ったんじゃないかな。自分のことを振り返って、力をもっと伸ばしたいっていう向上心をもっていた。

サムは会場を盛り上げたんだ。サムの実力を認めたから許せたと思う。だから認める心。

サムの一生懸命なところに感心したからじゃないかな。サムのよさを認める心で許せたんだ。

導入

①これまでの道徳的価値の捉えを確かめるために
【主題に関わる発問】
・初めに「広い心」について問うことで、主体的に考えるように促すことが大切。

②中心的な発問に対する考えを深めるために
【人間関係を捉える発問】
・中心人物であるピエロとブランコ乗りのサムの関係や、状況を理解させることが、中心的な発問に対する考えを深めさせることにつながる。

③自分にとって身近な問題として捉えるために
【ネームプレートの活用】
・自分だったら許せるか、理由と共に交流させることで、実際にはピエロのとった行動は難しいことを感じさせる。

④道徳的価値の意味への理解を深めるために
【グループでの話合い】
・友達の考えに触れさせることで、多様な考えに気付かせることができ、道徳的価値についての感じ方や考え方を深めることができる。

◇ 他に考えられる中心的な発問
○なぜ朝まで一緒にいることがつらくなかったのか。
○人の関係をよりよくするためには、どうすればいいか。

◆評価について
・授業の最初と最後での「広い心」に対する考えを比較し、自分の生活を振り返って感想を書かせる。その記述内容などを通して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る。

情報モラルに関する学習

教材名
「言葉の向こうに」
◆ねらい
相手の立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容な心をもとうとする態度を育てる。
◆対象学年　中学校
◆内容項目　B－（９）　相互理解、寛容

ワークシート

「言葉の向こうに」　道徳ワークシート
年　組（　　）

★「言葉の向こうにいる人の顔を思い浮かべる」とはどういうことだろう。

★発見した「すごいこと」とはどんなことだろう。

★今日の学習で分かったこと、学んだことを書きましょう。

交流活動の仕組み方

★　何について話し合わせるかを、授業の「ねらい」をもとに、しっかりと吟味する。
①自分の考えをもつ
②ペア、グループで話し合う
③全体で共有する
④自分の考えをもつ
※　交流活動を取り入れる目的は、自分の考えを深めたり広げたりするため。最後は、自分に返すということが大切。

コミュニケーションの在り方

今後、電子メールやＳＮＳという通信手段で、同じ興味や関心をもった人と交流していくことが多くなる子どもたち。そのため、インターネットの魅力を体験する一方で、様々なトラブルに遭遇する可能性が高くなる。現に、「ネットいじめ」と言われるものが、後を絶たない。言葉だけを介して交流することで誤解が生まれていることが、原因の一つにる。
だからこそ、自分が発した言葉の向こうに、それを受け止める他者がいることを想像させなければならない。今こそ、今後益々発展していくネット社会でのコミュニケーションの在り方を考えさせなければ!!

板書

「言葉の向こうに」

発見した「すごいこと」って何だろう。

①
生徒の実態調査の結果
（グラフや数値など）
※電子黒板と組み合わせて活用

②

＜グループＡ＞ いろいろな考えを認めることが大事だ。	＜グループＢ＞ 言葉だけが人の気持ちの全部ではない。
＜グループＣ＞ 悪口はいけない。冷静になることが大切だ。	＜グループＤ＞ 言葉の奥にある人の気持ちを考えること。

大切なことは
・言葉だけにとらわれないこと。
・いろいろな考えを認めること。
↓
人の思いや気もちを大事にする。

指示・発問と指導上の工夫

導入

サイトを見たことありますか。
書き込みをしたことは？
書き込みをしている時って、何か考えている？

書き込みは、したことないけど、見たことはある。

思ったことや思いついたことを書き込んでるよ。

「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべる」とは、どういうことだろう。

発見した「すごいこと」とは、どんなことだろう。（個人からグループでの交流へ）

展開

まずは、自分で考えてみましょう。（しばらくしてでは次に、グループで交流をしてみましょう。

いろいろな考えがあることを認めないといけないね。

言葉だけにとらわれないことだね。言葉の奥にある人の気持ちを考えないといけないね。

コミュニケーションって、人の思いや気もちを大事にしなければいけないね。

グループで話し合ったことを、発表しましょう。

終末

いろいろな考えがあり、それを認めれること。

言葉だけでなく、その奥にある人の気持ちを考えること。

今日の学習を通して、分ったこと、学んだことは何ですか。

①ＩＣＴ機器の活用
【導入で提示】
・生徒の実態調査の結果を提示する。
【教材として作成】
・ＳＮＳのやり取りの様子なども授業者が作成する。
②中心的な発問に対する考えを深めるために交流活動を仕組む。
【交流活動の工夫】
・グループごとに話し合った後に、グループの代表者が発表し、黒板に貼って学級全体で共有できるようにする。
・例えば、〈個人→グループ→全体→個人〉と進める。自分の考えだけでなく、他者の考えを聞くことで、多面的・多角的に考えるようになり、自分の考えを再考することにつながる。
・大切なことは、授業の「ねらい」に応じて、交流のさせ方を工夫しなければいけないということである。いつも同じパターンではなく、「ねらい」をもとに、どんな交流のさせ方がよいのか、吟味する。

【評価について】
・発言や表情、交流活動時の様子から見取る。
・今日の学習を通して分かったことや学んだことの記述内容などから、学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る。

道徳科における評価

道徳科の学習評価は、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価です。

■ 評価の意義

① **教師**にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となる。
② **児童生徒**にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものとなる。

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならい。

■ 道徳科の評価の在り方

○ 数値による評価ではなく、**記述式**とすること
○ 個々の内容項目ごとではなく、**大くくりなまとまり**を踏まえた評価とすること
○ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め認め、励ます**個人内評価**として行うこと
○ 学習活動において児童生徒がより、**多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること
○ 発達障害等のある児童生徒が抱える**学習上の困難さ**の状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと

評価の視点

道徳科の評価では、「**児童生徒の学習状況**」、「**道徳性に係る成長の様子**」について、記述することになります。
その際、次の２つの視点に着目することが重要です。

○ 他者との考え方や議論にふれ、自律的に思考するなかで、一面的な見方から「**多面的・多角的な見方へと発展**」しているか。
○ 多面的・多角的な思考のなかで、道徳的価値の理解を「**自分自身との関わりの中で深めて**」いるか。

★ 一面的な見方から「**多面的・多角的な見方へと発展**」させていることに関する視点の例

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- 自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしていることに着目する。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

★ 道徳的価値の理解を「**自分自身との関わりの中で深めて**」いることに関する視点の例

- 教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
- 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりする。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めていることに着目する。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。

児童生徒の授業中の発言や会話、作文、感想文、ワークシートなどから見取るようになります。
記述が苦手だったり、悩んだり、迷ったりして記述できないこともあるかも知れません。発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目することも重要です。